

新年おめでとうございます。

この年のあなたの歩みの上に主イエスの恵みと祝福をお祈りいたします。今年もよろしくお願いいたします。

「いと高き所には栄光、神にあれ

地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカによる福音書2章14節）

ロシアの横暴なウクライナ侵略は多くの命を奪い、胸が痛みます。ひたすら「地には平和」を望みます。岸田政権は原発稼働、新設、更に、軍拡を議論なしに進め、国のあり方が変えようとしています。安全と平和が国民を守るのです。私は健康が維持され、日々変わらず過ごせることに感謝しています。（隆雄）

早朝ウォーキングや、鉢植えの薔薇を楽しんでいます。39歳の甥がコロナで召され、悲しみました。メメントモリを覚え、今を悔いなく生きたいと思います。互いに健康管理に心を配っています。（悦子）（私たち夫婦の年賀状である。）

昨年2月、ロシアはウクライナに侵攻した。考えられない暴挙に啞然とした。以来、戦火は止まず、多くの人々の命が失われている。世界経済にも混迷をもたらした。ロシア軍は、人道に反するウクライナ国民の虐殺、都市への無差別な攻撃など幾多の「戦争犯罪」を行っているが、戦果が得られていない。ロシアは安全保障が脅かされるならば、核を使用すると脅し、自国への攻撃を牽制し、ウクライナには執拗に攻撃を繰り返している。ウクライナ人は、電気、ガス、水道などの命を支えるインフラに攻撃を受け、冬を迎えて過酷な生活を強いられている。この非道に対し、ウクライナ人の「怨念」は幾世代に渡っても消えることはないだろう。ロシアに近かった国々もロシア離れが起こり、今や、ロシアを支持する国はシリア、北朝鮮、キューバくらいしかなく、国際的孤立は進むばかりである。ロシアはエネルギーと食料はあるらしいが、どのような形で終戦を迎えるのであれ、ロシアの世界史的敗北だけは明白である。

コロナ禍は収まらず、第8波を迎えている。この3年間に、多くの人が死に、罹患して苦しんだ。人は顔と顔を合わせ、話し合うことによって自分自身を確認するものだが、コロナによって人間関係が希薄にさせられた。スマホやSNSでの短い会話だけ、パソコンでの要件の送受信だけで済ませるようになり、精神的に退化したのではないかと危惧する。経済的損失はいずれ回復できようが、言葉と体で対話する生きた関係を喪失したのではないか。分断が著しく見られる今日、あらゆる領域で対話できる精神の醸成が求められる。このようなパンデミックは、次々に起こると予想されている。人類の苦悩は終わらない。

安倍元首相の銃撃事件は驚愕であった。ところがその後、旧統一協会による家族崩壊、二世たちが負った悲劇が続いていることが露呈した。そればかりでなく、彼らの強力な政界進出の実態が明らかになり驚いた。旧統一協会は、日本が朝鮮侵略により贖罪しなければならない「エバ国」であると反日思想を煽っているが、それと自民党が結託していることに理解できない違和感を持つ。自民党はなりふり構わず、選挙に勝つことを求めたということであろう。恐怖と金で抑え込む仕方は正義を生まない。

いつの時代も、同じような困難な問題を抱えるであろう。人間否定に対しては「否」を表明し、希望ある未来を信じて歩み続けたい。私たちには、神の愛が、主イエスの恵みが与えられていることを覚えて、感情的に悲観せず、意志的な楽観をもって平和を求めて生きたいと願っている。主イエスは既に罪と死に勝利しておられるのだから。